

2022-23 年度

第 37 回北海道中学校バスケットボール新人大会 南大会 北大会

COVID-19 感染拡大予防ガイドライン

(一財) 北海道バスケットボール協会

1. ガイドライン作成の基本的な考え方

『令和 4 年度全国中学校体育大会 第 52 回全国中学校バスケットボール大会 COVID-19 感染拡大ガイドライン』
『北海道中学校体育大会における新型コロナウイルス感染症に関わる参加等についての基本的な考え方について5月6日版』
『JBA バスケットボール事業・活動実施ガイドライン第5版（2022 年 5 月 12 日版）』
『HBA 新型コロナウイルス感染症ガイドライン「第 10 号通知」（2022 年 5 月 31 日版）』

上述のガイドラインに基づき、主催者が総合的に選手・チームの大会参加等を判断する。報告内容によっては、**選手・チームに大会参加の自粛を勧告することもある。**

2. 出場チームの選手・チームスタッフ・応援者が遵守すべき事項

- 以下の事項に該当する場合は、**会場への入場ができません。**
 - 体調不良（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状または味覚障害・呼吸困難等の症状がある）で、感染の疑いがある。
 - 新型コロナウイルス感染者で療養期間中である。
 - 新型コロナウイルス感染症と診断された者との濃厚接触者で、経過観察中である。
 - 参加者本人又は同居家族が海外から帰国又は再入国し、当該帰国者が検疫所から自宅待機を求められている。
- ※同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる者がいる場合は、自主的に参加を見合わせることを推奨する。
- 大会に出場し、会場に入場するすべての者は、『健康チェックシート』に大会前日までおよび当日朝の体温を記録し、健康管理を徹底すること。『健康チェックシート』は、大会 1 日目用と大会 2・3 日目用に注意し、提出すること。
- 『利用者名簿』を大会期間中は 1 日ごとにつくり、『健康チェックシート』との番号をそろえて受付に提出すること。
 - 別紙 1～3 → 選手およびチームスタッフ、エントリー外選手
 - 別紙 4～6 → 応援保護者
 - 別紙 7～10 → 大会役員・大会補助役員生徒・審判員・視察員
- 大会 2 日前からの他チームとの交流・対外試合は行わないこと。ただし、合同チーム内での活動は行ってもよい。※南大会：12 月 22 日(木)、北大会：12 月 23 日(金)から交流・対外試合ができないものとする。
- **マスク（不織布以上の機能を有する規格品であるもの）を持参・着用**すること。受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること。その他、選手のマスク着用については、原則マスク着用として、以下の表で場面を確認する。

場面	アップ前の ミーティング	フロアでの アップ	ハーフタイムの アップ	試合前のアップ	試合出場中 (オンザコート)	試合中 (ベンチ)
マスク 着用	義務 ○	義務 ○	義務 ○	原則 △	なし ×	義務 ○

※試合中のベンチでは、息が整うまではマスクをせずに、ベンチの端に座り、息が整い次第、マスクを着用し、ベンチに戻ることにする。

※熱中症の危険がある場合は、選手の判断に任せるだけではなく、チーム責任者が指示を出し、熱中症防止に努めること。

- 試合前後または試合中に、仲間と手をつないだり、肩を組んだりして行う円陣やハイタッチ等を行わないこと。また、チームメンバーと一緒に声を合わせて応援したり、掛け声をかけたりすることは行わないこと。
- スタンディングコーチおよびチームスタッフは、**マスクを着用し、指示を出す**こと。大きい声は出さないこと。
※マスクをずらして指示を出すケースや選手に話すケースが見受けられます。そのようなことがないようご注意ください。
- 衣類は個人で管理し、タオルやボトルなどを共有しないこと。
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- 施設の他の利用者、施設管理者、大会役員等との距離（できるだけ2m以上）を確保すること。（介助が必要な場合を除く）
- 大きな声で会話や応援をしないこと。
- 感染防止のために施設管理者・主催者が定めた措置を遵守すること。
- 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告すること。
- 大会後の感染症対策については、所属長（校長等）の指示に従うこと。
- 手洗い後に手を拭くためのマイタオルを持参すること。
- 会場内で飲食する場合は、**【黙食】【同じ方向を向く】【人数を分け最少人数で取る】**ことを心がけること。

3. 大会直前の発熱等に関わる対応について（追加記載事項）

- 大前提となる考え方について、今大会において、**【集団感染が起こらないこと】【感染拡大が起こらないこと】【誹謗中傷を行わないこと】**の3点です。その趣旨を【選手】【チームスタッフ】【保護者】に対して理解を深め、協力体制を確実に整えること。
- 大会事務局は、『別紙 感染者発生時における対応フローチャート』に沿って、素早く対応を協議する。
状況によっては、フローチャートとは別の対応を取ることも考えられるため、**まずは緊急対策本部への報告を確実に行うこと。**
- 直前の検査や診療等に必要な費用は、すべて自己負担とする。大会事務局が抗原検査キット等は無償配付することはできない。
- **抗原検査キット（医療用）を各チームが大会に向けて準備すること。**
※当日に発熱者が出た場合は、症状の有無に関わらず、チーム全員の陰性確認が必要。

4. 入場・受付に関すること

- 試合会場への入場は、チームスタッフ（引率責任者、コーチ、A コーチ、マネージャー）の4名と、登録選手15名を基本とする。エントリー外選手の入場は、最大10名までとする。ただし、特別な事情がある場合については大会主催者に問い合わせること。
- チームによっては、トレーナーを1名帯同してもよい。トレーナー申請書を大会前日までに提出すること。また、チームスタッフの一員として、チェックリストの提出等、感染症対策を徹底すること。
- 保護者の観戦は最大15名までとする。ただし、1試合目と2試合目で別の保護者が試合観戦を行う場合は、『利用者名簿』に記載の上、入場時に『健康チェックシート』を提出すること。また、未就学児は人数に含めないこととする。
- 保護者は試合ごとに入場する。試合終了後は、会場から出ること。試合開始の15分前までに受付を済ませ、入場すること。
- 第1試合に出場するチームの受付時間は開場時間（8：00）とする。第2試合以降のチームは、いつ入場しても構わないが、受付で入場順を決めるため、指示に従うこと。
- 入口に設置してある非接触型検温計で、必ず全員がその場で検温を受けること。37.5℃以上を測定した場合には、接触型体温計で、再度検温する。
※発熱が認められる選手がいた場合、当該チームに辞退を勧告する場合がある。
- 手指消毒をすること。
- 貸し切りバスで参加する場合、バスが長く路上駐車し、交通の妨げにならないよう注意する。
- 会場を出る際、チーム責任者はチーム全員に対して健康調査を行い、体調不良者がいないかを再確認する。いる場合には、大会本部に至急連絡する。

5. その他、感染症対策に関わるお願い

- チームで出たゴミはすべて持ち帰ること。
※例年、弁当ガラの置いていき、大会運営に支障をきたす場面が見受けられます。弁当ガラの管理は特別お気を付けください。
- 選手はスタンドを控え場所とし、1席空けて座ること。
- ベンチや観覧席等、チームで使用した場所は責任をもって消毒を行うこと。
※試合後のベンチ消毒については、原則チーム責任者が行うこととする。
- 試合中の手指消毒および試合後のベンチ消毒について、消毒液は各チームで準備することを原則とする。
- 一般の観客は会場に入場することができない。入場は、参加チームの選手及びスタッフ、チーム応援者（保護者・エントリー外選手）、派遣審判および大会役員・大会補助生徒・地区協会視察員のみとする。
- 移動時・宿泊施設内でも感染防止対策を徹底すること。具体的に、車内ではマスクを常時着用し、食事自粛や会話を控えるなどの措置を取ること。宿泊施設では、ミーティング時のディスタンスと換気の確保、同室以外の接点を極力もたないなどの措置を取ること。
- 開会式は実施しない。簡易的な表彰式のみを行う。
- 会場内の動線を分ける。※別紙『大会における注意事項』を参照。
- 大会期間中に、選手・チームスタッフまたは応援保護者に体調不良者が出た場合は、すみやかに大会事務局に連絡すること。チームによる勝手な判断をせず、大会事務局の指示に従い、感染拡大の防止に最大限務めること。